

## すべての子どもが学びやすい開隆堂の教科書づくり

東京家政大学教授 半澤嘉博



通常の学級には、障害などにより学習面で個別の配慮が必要な子どもも在籍しています。新しい学習指導要領でも、教科指導における個別の支援の具体例を示しているところです。

開隆堂の教科書は、子どもの認知特性の違いや特別支援教育の観点などから、だれもが理解しやすいような配慮や工夫が随所になされています。例えば、実技を伴う家庭科では、QRコードですぐに動画を見ることができるようになっています。また、文章表記において、できるだけ単語や文節が途中で改行されないようにして、一目読みしやすいように配慮しています。

さらに、教科書に合わせて発行される教師用指導書には、教師が行う個別配慮の観点や実際のヒントも数多く掲載されていますので、ご活用ください。

### 開隆堂の小学校家庭科教科書の特徴

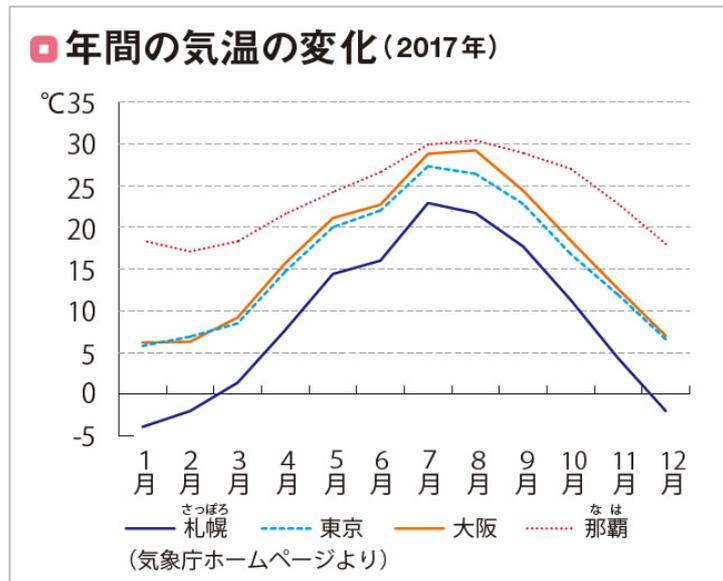
①単語や文節が行をまたがないように改行位置を工夫して、文章や語彙の意味が、一目で理解できるようにしています。特に、子どもが音読する際の読みやすさや理解しやすさが決定的に違ってきます。

#### ①<sup>ぬの</sup>布について知ろう

布は糸を織<sup>お</sup>ったり、編<sup>あ</sup>んだりして作った物で、生活になくなくてはならない材料です。はだざわりやじょうぶさ、しなやかさなどの特徴<sup>とくちょう</sup>が異なる<sup>こと</sup>いろいろな布があります。

②色覚に困難さのある子ども（約5%）にも識別しやすいように、できるだけ背景に色を重ねないようにするなど、色の使い方について配慮しています。

③図表の認識性を高めるために、カラーユニバーサルデザインの基準に基づいた配色の配慮をしています。特に、暖色と寒色の対比に留意し、グラフや図表の違いに気づきやすく配慮しています。



わたしたちの家庭科 5・6 p.69 折線グラフ

④実技を伴う教科では、教科書を読んだだけでは、実際にどのような活動や動作を行えばよいのかが分かりにくいことがあります。家庭科の教科書では、教科書に掲載されたQRコードをコンピュータで読み取ると、すぐに動画を見ることができるようになっています。

**ご飯をたいてみよう**

- 米をはかる
- あら 米を洗う
- 米をたく
- ご飯のたき方（ガラスなべ）
- じっけん 実験（米の吸水）

**米をはかる**

計量カップの使い方

わたしたちの家庭科 5・6 p.51 QRコード、目次画面、動画画面

⑤教師用指導書には、左利きの子どもへの配慮として、左利きで行う場合の動画も収録してあります。

⑥紙面のつくりかたとして、視覚的な認識の観点から、上下より左右の方の移動の認識の優位性に基づき、調理や裁縫などの作業の手順をできるだけ横一列で展開しています。

ご飯 (手順の写真は4人分)

材料と分量(1人分のめやす)  
 米……80g (100mL)  
 水……120g (120mL)  
 (水は、米の重さの1.5倍、体積の1.2倍)

必要な調理用具を確かめよう。  
 文化なべ、ボウル、ざる、しゃもじ、計量カップ

**1 米をはかって、洗う**  
 はかった米を、3・4回水を変えてかき回しながら、洗う。

**2 水をはかり、吸水させる**  
 水を切った米と水をはかった水をなべに入れ、よく吸水させる。

**3 たく**  
 ①点火し、ふっとうするまで強火にする。  
 ②ふたがゴトゴト動き、湯気が出てきたら中火にする。  
 ③水が引いて、ふたが動かなかったら弱火にする。

**4 蒸らす**  
 ④火を消し、蒸らす。10分間くらいふたを開けない。  
 ⑤軽く混ぜ、かわいたふきんをかけてふたをする。

**5 盛りつけ・試食・後かたづけ**  
 盛りつけて試食をする。食器やなべは、水につけておくで洗いやすい。

安全 やけどに注意しよう。

ふっとうの状態や水が引いた状態などを観察しよう。

ガラスなべの写真は、なべの中でご飯がたけるようすを示している。

吸水 (30分間以上) → 強火 (2-5分間くらい) → 中火 (5-7分間くらい) → 弱火 (15分間くらい) → 消火と蒸らし (10分間くらい)

時間は文化なべで4人分をたくときのめやす

なぜ、蒸らしが必要なのだろう。

わたしたちの家庭科 p.50-51 手順

⑦外国籍の子どもへの配慮として、教師用指導書に各単元の内容説明を7か国語に翻訳した文章を掲載しています。